

1 前期実施計画からの継続検討事項

- 中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の3校の将来的な在り方を検討する必要がある。
 - ・安芸高校：南海トラフ地震への対応のため、適地への移転を検討する。
- 中村高校西土佐分校：2年連続して入学者が20人に満たない状況になった場合は、その翌年からの募集停止を検討する。
- 宿毛高校：南海トラフ地震による津波への対応のため、適地への移転の可能性を含め、将来の学校の在り方を検討していく。
- 清水高校：南海トラフ地震による津波への対応のため、高台への移転を検討する。

2 「県立高等学校再編振興計画」で定めた適正規模に関する検討事項

(1) 本校

〔記載内容〕過疎化が著しく近隣に他の高等学校がない学校。不登校や中途退学を経験した生徒、発達障害のある生徒等に柔軟な対応をするための支援体制を整えた学校については、特例として1学年1学級(20人)以上を最低規模として維持する。

〔現状課題〕**中芸高校**：本年度下回る（H29年度：11人、H28年度：26人、H27年度：23人）
四万十高校：本年度下回る（H29年度：13人、H28年度：20人、H27年度：20人）

(2) 分校

〔記載内容〕2年連続して入学者が20人に満たない状況になった場合、その翌年からの募集停止を検討する。※「入学者が20人に満たない状況が3年間で2度ある」から基準を緩和

〔現状課題〕**吾北分校**：本年度下回る（平成29年度入学生19人〔H28:23人、H27:23人〕）
西土佐分校：2年連続下回る（平成29年度入学生9人、平成28年度入学生11人）

(3) 併設型中高一貫教育校

〔記載内容〕東部、中央部、西部の3地域での配置を維持する。

〔現状課題〕**県立安芸中学校**の志願者が減少し、生徒確保が課題となっている。
 ※平成29年度：定員60人、志願者36人、入学者35人

(4) 総合学科の学校

〔記載内容〕生徒数の減少等により複数の系列を置くことが困難な学校については、生徒数や地域の状況も踏まえつつ必要に応じて普通科への改編も検討する。

〔現状課題〕**室戸高校**の入学者が減少し、現在の4系列の維持が難しくなっている。

※平成29年度：定員80人、入学者42人

※現在の系列：文理総合系列、IT・アート系列、生活福祉系列、機械技術系列

(5) 定時制（夜間部）

〔記載内容〕最低規模については、様々な学びを保障するため、「1学年1学級10人程度以上」から「学校全体の生徒数を20人以上」に緩和し学校の維持に努める。

〔現状課題〕**室戸高校**：3年連続下回る（H29年度：17人、H28年度：11人、H27年度：11人）

中芸高校：3年連続下回る（H29年度：18人、H28年度：17人、H27年度：8人）

須崎高校：本年度下回る（H29年度：17人）

清水高校：2年下回る（H29年度：19人、H28年度：21人、H27年度：19人）